

7-1

三の丸武家地の変遷

三の丸には石高の多い譜代の家臣や重臣が住んでいました。「享保十三年秋改 信州松本城下絵図」を出発点としてその後の変化を見てみましょう。



- 現在の大名町通りは享保13年の信州松本城下絵図では「大名小路」となっています。道幅は現在の車道部分とほぼ同じと見られていますが、北側ではどのくらいあったでしょう。
 - 4間1尺
 - 5間1尺
 - 6間1尺
 - 7間1尺
- 地図の南側土塁に沿って西から東に伸びている小路名 (A) 及び旧勸銀の南側の小路 (B) をなんと呼んだでしょう。

A—— () B—— ()

 - 中小路
 - 上小路
 - 広小路
 - 土手小路
- Cは板橋兵左衛門の屋敷です。大阪の陣で、城主戸田康長の危機を救ったとされる「夜光稲荷」伝説をもつ600石の家柄です。慶長19年(1614)知行80石で戸田康長に仕え、正保2年(1645)には1000石に出世しています。(その後分家を出し享保13年段階では600石) 板場兵左衛門はどこで仕官しましたか。
 - 笠間
 - 二連木にれんぎ
 - 加納かのう
 - 高崎

4 Dは屋敷の大名小路に面し長さが43間1尺という広大な林忠左衛門の屋敷です。年寄役を勤めていますは何石の家柄でしょう。

- ①700石 ②800石 ③900石 ④1000石

5 Eの地点あたりに現在写真のような新井家の門が建っています。これは当時の様子を伝える武家の門ですが、この形式をなんというでしょう。

- ①薬医門 ②腕木門 ③冠木門



6 Fのところに^{たつみごてん}辰巳御殿がありました。辰巳御殿は弘化2年(1845)「病あるを以って」という理由で戸田光則に家督を譲り隠居した城主が住んだところです。隠居し尤香齋(ゆうこうさい)と称した人物は誰でしょう。

- ①光悌(みつよし) ②光行(みつゆき) ③光年(みつつら) ④光庸(みつつね)

7 女鳥羽川にかかる大手橋を渡って大手門から大名小路に入ることは庶民には許されませんでした。この規制が取り払われ通行自由になったのはいつでしょう。

- ①明治元年7月 ②明治3年7月 ③明治4年7月

8 明治13年6月 明治天皇「御巡幸松本御通図」の錦絵には本町通りに警察署がその北側にG寺院があります。この寺院は明治11年4月大手門西の総堀を埋め立てて作られたものでした。この寺院名はなんというでしょう。

- ① 本願寺別院
② 安立寺
③ 善立寺
④ 前山寺



9 武家地には屋敷神として稲荷社を祀ることは盛んに行われていました。明治維新後住人の移転に伴って残された社もあったと思われます。この大手公民館西側にある稲荷は江戸時代からのものといわれています。この稲荷社の名前はなんというでしょう。

- ①林昌寺稲荷 ②塩屋稲荷 ③美術稲荷

